

ミヤマノギカワゲラ カワゲラ目ヒロムネカワゲラ科

Yoraperla uenoi (Kohno, 1946)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



幼虫 八頭郡智頭町芦津沖ノ山 2010.4.17/撮影：稲田和久

■**選定理由**：県東部の限られた山塊の山地溪流にのみ生息地が限定され、個体数も少ない。生息場所の砂防工事等の河川改修により、自然状態が改変された場合、壊滅的な危機的状况になる。好冷水性の種であるため、国内での分布の中心は東日本の高冷地である。現在のところ本県東部が分布の西限である。

■**特徴**：幼虫の体長8 mm内外，頭部は横長で，前胸背板幅より狭い。黒褐色で斑紋もなくズングリとしたゴキブリ様。前～後胸および腿節に明瞭な剛毛がある。

■**分布** 県内：県東部。沖ノ山山塊の標高600 m以上の山地溪流数地点。県外：長野・山形・山梨・石川・神奈川・東京・静岡・福島・奈良・兵庫。

■**保護上の留意点**：分布地の微生息環境は花崗岩質の落ち込み型溪流の細流であり，砂防工事には十分な配慮を要する。

■**文献**：181, 205.

執筆者：稲田和久

ウスバカマキリ カマキリ目カマキリ科

Mantis religiosa Linnaeus, 1758

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



交尾（背におぶさっているのが雄） 米子水鳥公園 2007.9.8/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：県内での確認記録が大変乏しく，産地が限定されている。

■**特徴**：体長50–65 mm内外。全身淡褐色または淡緑色で，前脚基節の内側基部に黒色斑またはリング状斑がある。コカマキリによく似るが，コカマキリはやや小型で，前脚腿節に独特な形の黒色斑があることで識別できる。河川敷等の日当りのよい草地に生息し，干拓地等の人工的な環境にも生息する。個体数は少ないが，局地的に多産することがある。

■**分布** 県内：米子市米子水鳥公園では普通に生息しているほか，鳥取市浜坂，米子市内でも記録がある。河川敷の草原を好むので，今後の調査で新たな産地が発見される可能性がある。県外：北海道南西部以南に広く分布するが，産地は局地的である；朝鮮，旧満州，シベリア，インド，中～南ヨーロッパ，北アフリカ，アメリカ。

■**保護上の留意点**：生息地となっている草地の遷移が進まないよう，草刈り等の維持管理が重要。

■**文献**：151, 152, 177.

執筆者：桐原佳介

ハマスズ 直翅目（バッタ目）ヒバリモドキ科

Dianemobius csikii (Bolívar, 1901)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雄（終齢幼虫） 鳥取市鳥取砂丘 2010.6.20/撮影：川上 靖

■**選定理由**：生息地である海浜植物の生育する砂浜海岸が減少傾向にある。

■**特徴**：体長7 mm前後の小型のコオロギ類。灰白色の体に暗褐色斑が点在し，砂地に「隠ぺい（カムフラージュ）」している。おもに夜行性で，昼間はハマゴウなどの海浜植物の根際にいる。砂地のみ場所には生息しない。雄は「ビー・ビー・ビー」という声で鳴く。鳥取県では年2化で，6月頃と9–10月頃に成虫がみられる。

■**分布** 県内：県内全域の海浜の砂地。ただし，大山町付近の海浜は礫浜や段丘地形であり生息していない。県外：本州，四国，九州，南西諸島（徳之島以北）；韓国，中国北部。

■**保護上の留意点**：海浜植物の生育する砂浜の保全が重要。

■**文献**：65, 67, 78, 175, 177.

執筆者：川上 靖

カヤコオロギ 直翅目 (バッタ目) マツムシ科

Euscirtus japonicus Shiraki, 1930

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



雄 北栄町お台場公園 2010.10.7/撮影：川上 靖

■**選定理由**：生息地である丈の低いイネ科草原が減少。現在、生息地はきわめて少なく局地的。

■**特徴**：体長9 mm前後。体は細長く、明るい黄褐色で、頭部から前翅にかけての上面と側面に黒褐色の縦帯がある。翅は短く、鳴かない。チガヤが多く、ところどころにススキが生えるような、明るいイネ科草原に群生する。年1化で、成虫は8-10月頃にみられる。

■**分布** 県内：北栄町お台場公園、伯耆町水無原などの草原に局地的に分布。県外：本州、四国、九州；韓国。

■**保護上の留意点**：イネ科への依存が強く、チガヤなどのイネ科草原の保全が必要。

■**文献**：177。

執筆者：川上 靖

ダイセンササキリモドキ 直翅目 (バッタ目) ササキリモドキ科

Tettigoniopsis daisenensis Yamasaki, 1985

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



雄 大山 (一ノ沢) 2001.8.16/撮影：川上 靖

■**選定理由**：生息地が大山の狭い地域に限定される (榎水原がタイプ産地)。

■**特徴**：体長10-15 mmの短翅のササキリモドキ類。雄の肛上板の先端が肉太の2葉に分かれるのが特徴。ブナ帯の灌木やササに生息し、成虫は7月下旬から8月上旬によくみられる。

■**分布** 県内：大山 (大山固有種：榎水原・鏡ヶ成・横手道・一ノ沢・大山寺・鍵掛峠など)。県外：なし。

■**保護上の留意点**：大山のブナ帯域の保全が重要である。

■**文献**：23, 50, 177, 210。

執筆者：川上 靖

ダイリフキバッタ 直翅目 (バッタ目) バッタ科

Callopodisma dairisama (Scudder, 1897)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



雌 大山 (鏡ヶ成) 2005.7.26/撮影：川上 靖

■**選定理由**：生息地がキャンプ場、スキー場などの広く開けた人工的な中規模攪乱環境に限られ、このような環境が減少している。鳥取県は種の分布西限で、産地はきわめて少なく局地的。

■**特徴**：体長20-30 mmのフキバッタ類。翅は短く側生し、飛翔できない。幼虫の色彩は黒く、光沢背中に緑白色の筋が走り、特異である。おもに各種の双子葉植物を食べるが、イネ科などの单子葉植物も食べる。生息地はキャンプ場やスキー場などの明るく開けた環境に限られる。岡山県蒜山では火入れ地にも生息している。成虫は7月~10月頃にみられる。

■**分布** 県内：大山の一向平キャンプ場と鏡ヶ成キャンプ場。県外：鳥取県・岡山県から長野県西部までの本州のみに局地的に分布 (日本固有種)。

■**保護上の留意点**：現在知られる産地はすべて人工的環境であり、草刈りなどの維持管理が重要である。

■**文献**：23, 54, 177。

執筆者：川上 靖

セトウチフキバッタ 直翅目 (バッタ目) バッタ科

Parapodisma setouchiensis Inoue, 1979

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



雌 鳥取市鹿野町 1994.7.15/撮影：川上 靖

■**選定理由**：県内に本種の地理的品種である基本型と氷ノ山型の移行帯が存在する。

■**特徴**：体長20–40 mmの黄緑色のフキバッタ類。短翅のため飛翔できない。外部形態の地理的変異が著しく、4つの地理的品種（基本型、氷ノ山型、丹波型、大和型）に分けられるが、分類については3種3亜種説（ヤマトフキバッタ、オマガリフキバッタ、ヒョウノセンフキバッタ、キビフキバッタ）などもある。鳥取県には中・西部に基本型、東部に氷ノ山型が生息し、境界では幅約5–10 kmの移行帯がみられる。年1化卵越冬で、成虫は7月～10月頃に、森林の林縁でよくみられる。

■**分布** 県内：全域。 県外：日本（青森県～屋久島）；韓国（済州島）。

■**保護上の留意点**：移行帯のみられる地域では、大規模な森林伐採などの開発は控えてほしい。

■**文献**：51, 52, 55, 57.

執筆：川上 靖

セグロイナゴ 直翅目 (バッタ目) バッタ科

Shirakiacris shirakii (Bolívar, 1914)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



鳥取市浜坂産 雌 2010.9.5/撮影：佐藤隆士

■**選定理由**：分布が局地的で全国的に産地が減少傾向にある。ただし、県内の分布状況の把握は不十分なため情報不足とした。

■**特徴**：体長 雄30–35 mm, 雌40–50 mm程度。体全体は褐色。胸部上面は平らで、名のおり濃褐色に「セグロい」。複眼には6本の縦縞がある。成虫は8月から晩秋まで見られ、チガヤ、ススキなどのイネ科植物を摂食する。草深い草原や低湿地に多いとされるが、県下での記録は県東部の沿海部の乾性に集中する。現在知られる生息地はきわめて局地的。

■**分布** 県内：鳥取県東部の沿海部。 県外：本州、四国、九州、南西諸島（過去のイシガキセグロイナゴ）；ロシア沿海州南部、中国東部～東北部、朝鮮半島、台湾、カシミール。

■**保護上の留意点**：生息場所の直接的な改変を厳に慎む必要がある。情報が不足しているため、早急な生息状況の把握と分布解明が望まれる。

■**文献**：65, 177, 179.

執筆：佐藤隆士

ショウリョウバッタモドキ 直翅目 (バッタ目) バッタ科

Gonista bicolor (de Haan, 1842)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雌 北栄町お台場公園 2007.9.12/撮影：川上 靖

■**選定理由**：生息地であるイネ科草原が減少傾向で、生息地は局地的。

■**特徴**：体長3–6 cm程度の細長い体型のバッタ類。背面は淡紅色。後脚は短く、跳躍力は弱い。チガヤなどのイネ科草原に群生し、イネ科植物の莖や葉にぴたりと体を寄せて止まっており、近づくとすばやく反対側に回り込む。年1化で、成体は8–11月にみられる。

■**分布** 県内：県内全域だが局地的（イネ科草原）。 県外：本州、四国、九州、南西諸島；中国、台湾、東南アジア。

■**保護上の留意点**：イネ科草原の保全が必要である。

■**文献**：23, 90, 92, 177.

執筆：川上 靖

ヤマトダラバッタ 直翅目 (バッタ目) バッタ科
Epacromius japonicus (Shiraki, 1910)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取砂丘 2007.8.1 / 撮影：鶴崎展巨

- 選定理由**：生息地である海岸の砂地が減少傾向。
- 特徴**：体長30–35 mm。白っぽい地色に暗褐色の点々模様が入り、砂地の色彩によく似た「隠ぺい色」になっている。海浜植物が散在する砂浜に生息し、短いイネ科草本を食べる。成虫は8–10月頃にみられ、日中に砂地の上を活発に飛翔しながら活動するため、確認しやすい。
- 分布** 県内：県内全域の海浜の砂地。ただし、大山町付近の海浜は礫浜や段丘地形であり生息していない。県外：北海道、本州、四国、九州（日本固有種）。
- 保護上の留意点**：海浜植物の散在する比較的大きな砂浜の保全が重要である。
- 文献**：68, 78, 175, 177.

執筆者：川上 靖

カワラバッタ 直翅目 (バッタ目) バッタ科
Eusphingonotus japonicus (Saussure, 1888)

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：—



大阪市立自然史博物館所蔵標本 雄 伯耆町大山山麓
 1948.7.15 青木 浩採集 / 撮影：金沢 至

- 選定理由**：鳥取県内では50年以上記録がなく、絶滅とみられる。
- 特徴**：体長25–40 mm。河川の石ころの目立つ河原に生息地が限られ、体色は灰色で石ころと紛らわしい。後翅の内側は鮮やかな青色で、よく飛び、石ころの上に着地する。年1化で、7–9月頃に成虫がみられる。鳥取県では、1948年7月15日、伯耆町（旧溝口町）大山山麓の1雄（大阪市立自然史博物館収蔵）以後、確実な標本がない。近年の調査でもまったく確認されず、県内では絶滅したと考えられる。
- 分布** 県内：かつて千代川、日野川、大山などの河川の大きな河原にいたとみられるが現在は絶滅。県外：北海道、本州、四国、九州（日本固有種）。
- 文献**：142, 177.

執筆者：川上 靖

ハマベツチカメムシ 半翅目 (カメムシ目) ツチカメムシ科
Byrsinus varians (Fabricius, 1803)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市鳥取砂丘 2007.4.19 / 撮影：鶴崎展巨

- 選定理由**：比較的規模の大きい海浜砂丘に生息地が限定され、鳥取県では鳥取砂丘と岩美町東浜で確認されているのみ。
- 特徴**：砂浜の海浜植物群落の根本付近の砂中に生息する体長3.5–4 mmほどの海浜性のカメムシ。鳥取砂丘ではハマベウスバカゲロウの巣穴の周辺の砂中で春季と秋季に見つかる。
- 分布** 県内：いまのところ鳥取砂丘と岩美町東浜で確認されているのみ。県外：九州（長崎県、福岡県）、本州（山口県、島根県、和歌山県、三重県、新潟県など）の海岸砂丘；国外ではインドからインドネシアを含む東南アジア諸国、中国、韓国。
- 保護上の留意点**：林縁に近い海浜植生群落付近では過度の踏みつけに注意が必要。
- 文献**：99, 175, 204.

執筆者：鶴崎展巨

ズイムシハナカメムシ 半翅目 (カメムシ目) ハナカメムシ科

Lyctocoris beneficus (Hiura, 1957)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



雌 鳥根県安来市東赤江町 2005.10.13/撮影：尾原和夫

■**選定理由**：戦後の稲作農法の改変や強力な殺虫剤によって全国的に絶滅に瀕している。県内（鳥取市青谷町）では戦前の記録があるが、近年の生息状況は不明。

■**特徴**：体長4 mm前後のカメムシのなかまで、黒褐色で光沢があり、微毛を散布する。野積みの稲わらや枯れ枝の間に生息し、鱗翅目幼虫などの体液を吸収する。かつてはズイムシ（ニカメイチュウの幼虫）の主要な天敵であったが、戦後はこのガ自体が絶滅状態にある。農地以外では河川敷や休耕田などの枯れ草堆積中に潜み、小昆虫などを捕食している。島根県安来市では近年、伯太川河口付近で採集されている。

■**分布** 県内：鳥取市青谷町露谷。県外：本州・四国・九州；韓国，中国，ロシア極東。

■**保護上の留意点**：休耕田や河川敷などのイネ科草原の適度な人的管理。

■**文献**：24, 38, 142, 158.

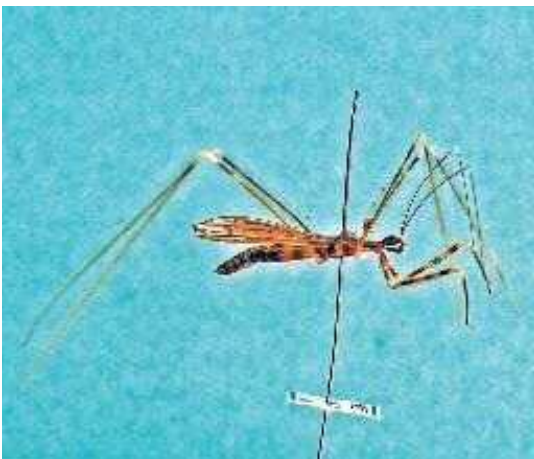
執筆者：尾原和夫

ゴミアシナガサシガメ 半翅目 (カメムシ目) サシガメ科

Myiophanes tipulina Reuter, 1881

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



倉敷昆虫館所蔵標本/撮影：青野孝昭

■**選定理由**：1950年代までは比較的普通であったが、近年では分布域が縮小し局所化している。本県（鳥取市青谷町）では1982年までは多数採集されていたが、それ以後の生息情報がない。

■**特徴**：細長い大型のサシガメで体長17 mm内外、淡褐色の地に濃淡の斑紋があり、長毛でおおわれる。脚、触角は細長く糸状で体長と同じかそれよりも長く、静止しているとガガンボのように見える。里山の林縁に生息し、小昆虫などを捕食する。山口県平生町では近年、築100年以上の古い家屋の便所で見つかっている。

■**分布** 県内：青谷町露谷。県外：本州，四国，九州；朝鮮半島，中国。

■**保護上の留意点**：家屋を含む里山環境の保全と適度な人的管理。

■**文献**：27, 142, 165.

執筆者：尾原和夫

イトアメンボ 半翅目 (カメムシ目) イトアメンボ科

Hydrometra albolineata (Scott, 1874)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



成虫/撮影：中島 淳

■**選定理由**：止水生の小型アメンボで、かつては本州から九州まで普遍的に分布していたが1960年代を境に分布域が縮小し、ほとんどの産地で絶滅した。本県（鳥取市青谷町）では戦前から1958年まで多数採集されていたが、それ以降の記録がない。

■**特徴**：体長11-14 mm，暗褐色から黒色で、長翅型と短翅型がある。雄の腹部7節の腹面は縦にくぼみ長毛がある。池沼・水田・河川などの水際の湿地にすみ、小昆虫やミジンコなどを捕食する。やや小型のヒメイトアメンボ *H. procera* は個体数が多く、灯火にも飛来する。

■**分布** 県内：鳥取市青谷町露谷。県外：本州・四国・九州・対馬・奄美大島・トカラ諸島；朝鮮半島，中国，台湾。

■**保護上の留意点**：止水域水辺の湿地を保護し、植生破壊，三面コンクリート化，水質汚濁などの環境悪化を防ぐ。

■**文献**：25, 142.

執筆者：尾原和夫

コオイムシ 半翅目 (カメムシ目) コオイムシ科
Appasus japonicus Vuillefroy, 1864

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



雄 米子水鳥公園 2007.6.30/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：かつては普通に見られたが、近年一部の地域を除いて激減している。県内では鳥取市青谷町での1952年を最後に生息情報が途絶えていたが、近年米子市で再確認された。

■**特徴**：成虫の体長は17-20 mm, 中型の水生カメムシ。水田や休耕田および周辺の水路など、日当たりのよい浅い水域に生息する。この仲間は雄が卵塊を保護する習性が発達しており、本属では雄が卵塊を背負うのでこの名がある。産卵期は4-8月。モノアラガイなどの淡水巻貝類や小型の水生动物を捕食する。成虫の越冬場所は水辺の枯れ草の下や根際など。

■**分布** 県内：鳥取市青谷町露谷, 米子市米子水鳥公園, 米子市榎原。県外：本州~九州; 朝鮮半島, 中国。

■**保護上の留意点**：水田や休耕田とその周辺の水量を周年にわたり維持し、殺虫剤や除草剤の散布を控える。

■**文献**：28, 39, 60, 142.

執筆：尾原和夫

オオミズムシ 半翅目 (カメムシ目) ミズムシ科
Hesperocorixa kolthoffi (Lundblad, 1933)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



西伯郡南部町 2010.8.9/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：本州西部, 四国および九州に分布するが、池沼環境悪化により激減している。県内では、西部で最近生息が確認された(未公表)が、他地域でも生息環境があると考えられる。

■**特徴**：同属のホッケミズムシよりやや大きく、体長約11-13 mmでやや丸みがあり、雄の顔の中央部は広く凹む。生態もホッケミズムシとよく似ており、池沼に生息する小動物を捕食する。ときに群生するが、産地は局地的。

■**分布** 県内：南部町上鴨部。県外：本州(近畿地方以西), 四国, 九州; 朝鮮半島, 中国, ロシア。

■**保護上の留意点**：生息地への各種排水の流入を監視し、除草などの適度な管理を施し、富栄養化を防止する。池沼のコンクリート化もできるだけ避ける。

■**文献**：29.

執筆：尾原和夫

ホッケミズムシ 半翅目 (カメムシ目) ミズムシ科
Hesperocorixa distanti hokkensis (Matsumura, 1905)

鳥取県：情報不足 (DD)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



雄 鳥根県出雲市大津町 1997.6.15/撮影：尾原和夫

■**選定理由**：里周辺のため池などの止水域が開発や都市化によって失われ、全国的に絶滅に瀕している。本県では戦前の記録が1カ所あるのみで、近年の記録はない。

■**特徴**：体長10 mm前後の水生カメムシのなかまで体は淡青黄色, 黒色の条斑がある。前胸背の黒色黄帯は8-9本。後肢ふ節には長毛が密集しており、これをのばしてオールのように動かし水中を泳ぐ。水中の小動物を捕らえて体液を吸収する。成虫で越冬し, 3月頃に産卵し, 新成虫は6月頃出現する。里山に接する池などで、ヒシやジュンサイが繁茂したやや富栄養化した水域に生息する。

■**分布** 県内：鳥取市青谷町露谷。県外：本州(山形県以南)・四国・九州。

■**保護上の留意点**：ため池などの周囲の里山的な環境の維持。他地域における生息情報の収集。

■**文献**：30, 142.

執筆：尾原和夫

タガメ 半翅目 (カメムシ目) コオイムシ科

Lethocerus deyrolli (Vuillefroy, 1864)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



雄(上) 雌(下) 1977.5.18/撮影：尾原和夫

■**選定理由**：やや富栄養化傾向の止水域に生息するが、戦後の土地利用の改変と農薬の大量使用や外灯の増加により個体数が全国的に激減。

■**特徴**：体長50–65 mm程度で、カメムシ類中最大。幼虫、成虫ともに、ため池や、水田とその周りの水路などの広くて深い水域にすむ。6月頃から産卵し、水上の杭などに産まれた卵塊を雄が保護する。ふ化した幼虫は水中で生活し、新成虫は8–9月に羽化。幼虫や成虫は各種の水生昆虫、メダカ、カエルなどの小動物を捕らえ体液を吸う。成虫は夜間に移動・分散し、灯火にもよく飛来する。水辺の枯れ草や土中で成虫越冬する。

■**分布** 県内：鳥取市、西伯郡、東伯郡、日野郡、など。県外：北海道～琉球；朝鮮半島、中国、台湾、極東ロシア、東洋区。

■**保護上の留意点**：生息地のため池や休耕田などの環境保全。周辺の水銀灯などの灯火は成虫を誘引するので要必要。

■**文献**：26,59,136,142,147.

執筆者：尾原和夫

ヒメミズカマキリ 半翅目 (カメムシ目) タイコウチ科

Ranatra unicolor Scott, 1874

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



日野郡日野町 2003.8.3/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：平野部のため池などの汚染・破壊によって、全国的に生息地が失われつつある。本県では、県東部の数カ所と日野郡日野町で生息が確認されている。

■**特徴**：体長は25–30 mm内外。やや富栄養化傾向の止水域に生息する細長い水生カメムシで、体長の2/3程度の呼吸管をもつ。産卵期は6月下旬から7月にわたり、卵はヒシやジュンサイなどの浮葉植物の組織内に産みつけられる。幼虫は小型水生動物を捕食する。8月ころに成虫が現れ、水草上で静止してメダカなどの小型の淡水魚、カエルやそのオタマジャクシなどを捕らえてその体液を吸収する。

■**分布** 県内：鳥取市（湖山池、河原町三谷）、岩美町（恩志、河崎、牧谷）、日野町（葦池）。県外：北海道～沖縄；朝鮮半島、中国北部、東シベリア。

■**保護上の留意点**：生息止水域の水草群落の種類や量の適切な管理。

■**文献**：61.

執筆者：尾原和夫

アカエゾゼミ 半翅目 (カメムシ目) セミ科

Lyristes flammatus (Distant, 1892)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



大山町大神山神社 2007.8.14/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：生息地が局地的で、個体群サイズが小さいと推定される。ただし、生息状態の把握が十分でないため情報不足とした。

■**特徴**：大型でオレンジ色の部分が多い美麗種。普通種エゾゼミとは、翅の斑紋が異なることで区別できるが、鳴き声はやや音調が異なるものの区別が難しいため、生息調査が実施しづらい。成虫は盛夏に現れる。標高500–800 m程度の落葉広葉樹林に生息。ブナ林よりも、その下部のミズナラを主体とした二次林や溪谷林が、おもな生息地と考えられる。

■**分布** 県内：智頭町、三朝町、大山町、日野町から記録されている。県外：北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国。

■**保護上の留意点**：二次林を含む落葉広葉樹林を大面積で保全すること。

■**文献**：70.

執筆者：永幡嘉之

ハルゼミ 半翅目 (カメムシ目) セミ科
Terpnosia vacua (Olivier, 1790)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取県出雲市浜山公園 / 撮影：尾原和夫

■**選定理由**：マツ枯れにともなう遷移の進行により、近年、生息地・個体数ともに急速に減少しているため。

■**特徴**：4月下旬から6月初旬にかけて出現する中型のセミで、マツ類との結びつきが強い。オスは晴天時に合唱する。おもに平地から丘陵地にかけてのアカマツ・クロマツ林に生息する。生息域は海岸から標高800 m付近に及ぶが、近年激減したため早期の現状調査が必要。

■**分布** 県内：県内全域の平地～丘陵地。県外：本州，四国，九州；中国。

■**保護上の留意点**：人々の生活様式が変化し、マツ枯れも広がった現在、里山のマツ林の大規模な復元は困難である。生息地は大面積であることを必要としないので、公園や社寺周辺のマツ林を重点的に保全することが重要と考えられる。

■**文献**：71.

執筆：永幡嘉之

ヒメハルゼミ 半翅目 (カメムシ目) セミ科
Euterpnosia chibensis Matsumura, 1917

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取県出雲市大社町鷺浦 1997.7.18 / 撮影：大浜祥治

■**選定理由**：生息地の孤立が著しく個体群間の交流がないため。

■**特徴**：小型のセミで、盛夏に出現。主として神社周辺のシイ・カシ類の、極相状態で維持されてきた常緑広葉樹林に生息し、稀に周辺の二次林にも進出する。成虫は合唱性が著しい。樹上に生息するため、調査には鳴き声もしくは抜け殻が有効。分布状態から、かつて極相林が広がっていた時代には広く連続的に分布していたものが、人間の生産活動によって二次林が広がった結果、社叢林に島状に孤立したと判断される。

■**分布** 県内：やや内陸部に位置する常緑広葉樹林で、垂直分布は常緑広葉樹林と一致し上限は標高約450 m。県外：本州（新潟県以西）・四国・九州・南西諸島。

■**保護上の留意点**：すでに個体群の交流がないため、生息地（主として社叢林）は大規模な伐採を避け、現状の面積で極相のまま維持すること。

■**文献**：72.

執筆：永幡嘉之

エノキカイガラキジラミ 半翅目 (カメムシ目) キジラミ科
Celtisaspis japonica (Miyatake, 1968)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



ゴール 米子市 2009.8.3 / 撮影：林 成多

■**選定理由**：県内の分布が局地的で個体数も少ない。

■**特徴**：体長2.3–3.3 mm。キジラミ科としては大型種。体は全体に茶褐色から黒色。前翅も全体に黒いが、秋型の雌は透明部分が広い。寄主植物はエノキとエゾエノキ。成虫は初夏と晩秋に羽化し、卵で越冬する。幼虫は白い貝殻状の覆い (Ierp) を形成する。春に出現する幼虫はエノキの葉の表側にツノ状の顕著なゴールを形成し、その裏側の貝殻状の覆いの中にすむが、秋に出現する幼虫はゴールを形成せず、貝殻状の覆いのみがある。

■**分布** 県内：鳥取市で1974年の記録がある。近年では大山山麓で3カ所での生息が確認されている。寄主のエノキは多いにも関わらず、生息が確認されることは希である。県外：本州西部と九州；朝鮮半島，中国。

■**保護上の留意点**：発生するエノキは限られているため、発生木を残すことがまず重要である。

■**文献**：139, 140, 141.

執筆：林 成多

ハマベウスバカゲロウ 脈翅目 (アミメカゲロウ目) ウスバカゲロウ科

Myrmeleon solers Walker, 1853

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



羽化直後の成虫 鳥取砂丘 2009.8.10/撮影：鶴崎展巨・江澤あゆみ

■**選定理由**：幼虫は海浜性のアリジゴクで、県内では鳥取砂丘のみに生息。ただし鳥取砂丘内では生息基盤は比較的安定している。

■**特徴**：海浜性で、幼虫は巣穴形成型のアリジゴク。巣穴直径は最大5 cm程度。類似の生活様式をもつクロコウスバカゲロウ *Myrmeleon bore* とは、明るい黄土色の体と頭部の斑紋で区別できる。巣穴はクロコのそれより常に海側の開けた砂地上に形成される。2または3齢幼虫で越冬し、成体は6-8月頃出現。産卵から羽化までに多くは2年かかるとみられる。

■**分布** 県内：鳥取砂丘（十六本松付近から東は岩戸海岸まで）のみ。県外：福岡県、島根県、新潟県、山形県の海岸砂丘；アフガニスタンから中国南部まで。

■**保護上の留意点**：鳥取砂丘にはかなりひろく生息しており、現状ではとくに心配ないが、林縁に近い海浜植生群落付近での過度の踏みつけに注意が必要。

■**文献**：175, 196, 201, 202, 203.

執筆者：鶴崎展巨

ホソハンミョウ 鞘翅目 (コウチュウ目) ハンミョウ科

Cicindela gracilis Pallas, 1777

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



山形県 2006.8.17/撮影：永幡嘉之

■**選定理由**：生息環境が特殊かつ減少が進んでおり、動向に注意を要する。

■**特徴**：細身で小型のハンミョウで、飛翔力をもたない。夏季に出現。地面を敏捷に歩行し、他の昆虫類を捕食する。本県では山地の火山性草原に生息。他県では平地河川敷などでも見られ、強度の攪乱により裸地が継続する遷移初期相という点が共通する。

■**分布** 県内：江府町鏡ヶ成から記録されたのみで、近年の確認例はない。中国山地の火山性草原を中心に、現状把握のための調査を要する。県外：本州、四国、九州；大陸極東部。

■**保護上の留意点**：火山性草原は、登山道整備の際に表土の流出を避けるため、裸地に木片や砂利を敷く工法が増加しているが、裸地を渡り歩いて生活している動植物には影響が大きいため、好ましくない。場所の特性に応じて、裸地を含む本来の多様な環境を維持する方法が検討されるべき。

■**文献**：—

執筆者：永幡嘉之

ハラビロハンミョウ 鞘翅目 (コウチュウ目) ハンミョウ科

Catomera angulata niponensis (Bates, 1883)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市小沢見 1994.7.20/撮影：永幡嘉之

■**選定理由**：県内に残る生息地は1カ所のみ。

■**特徴**：中型のハンミョウで、上翅がやや幅広い。樹林で成虫越冬し、新成虫は7-10月に出現。砂浜に淡水が流入した部分があることが生息条件で、成虫は夏季には淡水で湿った砂地で活動、秋季には砂浜に分散。現在も生息しているのは鳥取砂丘のみだが、近年の確認例はほとんどなく、現状把握が急務。鳥取市小沢見は非常に良好な生息地であったが、上流にガソリンスタンドが建設され排水により水路が汚染されると同時に絶滅した。

■**分布** 県内：記録地は鳥取市（鳥取砂丘周辺、小沢見、青谷町青谷）、八頭町（旧郡家町）姫路、鳥取市青谷町露谷からの記録は要検証。県外：本州（新潟県以西）、九州、種子島；東南アジア全域。

■**保護上の留意点**：本県での絶滅要因は、上流からの排水、河口域の護岸による淡水の砂浜の消失、砂浜と越冬場所である樹林との分断の進行。

■**文献**：—

執筆者：永幡嘉之・佐藤隆士

カワラハンミョウ 鞘翅目 (コウチュウ目) ハンミョウ科

Chaetodera laetescrpta (Motschulsky, 1860)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取市鳥取砂丘 2007.9.15/撮影：永幡嘉之

- 選定理由**：生息地がきわめて限定され、孤立と分断が進行している。
- 特徴**：地色が白いハンミョウで、海岸砂丘に生息。成虫は7-9月に出現。7月には成虫の活動域は砂が淡水と交わる周辺に限定されるが、8月以降は広範囲に分散する。幼虫は草本が疎生する砂浜の広範囲に生息。県内では、大面積の海岸砂丘の、淡水と砂地が交わる環境にのみ生息。成虫の活動初期に淡水の存在が重要。幼虫は周辺の砂浜に生息。
- 分布** 県内：千代川河口右岸の砂丘一帯と天神川河口の2カ所のみで、それぞれが孤立。河川敷など海岸以外での確認例はない。県外：北海道、本州、四国、九州；大陸極東部。全国的に激減。
- 保護上の留意点**：淡水と砂地との交わる環境を保つこと、連続性のある形で砂浜環境を残すこと。自動車の砂浜への侵入は、活動が鈍い時間帯の成虫が轍のくぼみに集中することで多数の轍死を招くため、厳に慎むべき。
- 文献**：—

執筆：永幡嘉之

オオヒョウタンゴミムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) オサムシ科

Scarites sulcatus Olivier, 1795

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



成虫 鳥根県出雲市 2005.8.14/撮影：林 成多

- 選定理由**：県内の分布が自然度の高い海岸部に限られる。海岸沿いに舗装道路などが建設され、良好な生息環境が減少している。
- 特徴**：体長30-40 mm内外。ゴミムシ類としては最大級。体は全体に黒色で光沢がある。大顎が大きく、上翅には条溝がある。砂地に坑道を掘り、生息する。夜間に活動する。捕食性で、飼育下ではコガネムシなどの甲虫もよく食べ、共食いすることもある。連続した砂地の環境があれば、内陸部にも生息する。
- 分布** 県内：砂丘の発達する沿岸部に広く分布するとみられるが、個体数の多い場所は局地的。県外：本州、四国、九州；東アジア、東南アジア、インド。
- 保護上の留意点**：海岸林の保全が必要。砂丘の開発、とくに道路の建設は生息環境を分断・破壊する。また、側溝に落ちて死ぬ成虫も多い。
- 文献**：175.

執筆：林 成多

ダイセンツヤゴモクムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) オサムシ科

Trichotichnus daisenus Habu, 1973

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



大山小鳥の道 2006.8.12.14/撮影：伊藤 昇

- 選定理由**：大山がタイプ産地。大山での個体数が少なく、近年のトラップ調査では確認されなかった。
- 特徴**：体長11-13 mm。前胸背板が心臓形で、上翅に強い光沢がある。飛行能力を欠き、地域的に分化の著しい種群とされる。地表性で、ブナ林の林床や沢沿いの石下などにいる個体が確認されている。ペイトラップや石起こしなど、一般的な山地性ゴミムシ類の採集方法で採集されているが、得られないことも多い。
- 分布** 県内：大山のブナ帯付近が生息域。県外：本州 (中国山地)。
- 保護上の留意点**：まず現状の把握として、分布状況や生息環境を確認する必要がある。
- 文献**：12, 22.

執筆：林 成多